**ヨハネによる福音書　1章**

文責：古橋　大佑

神とは、ことばとは、いのちとは。そしてその関係とは。

ヨハネはどういう人？

イエスはどういう存在なのか？

# 【洗礼者ヨハネの証】19-28

洗礼者ヨハネは人々の「あなたはなにものなのか？」という問いにたいして

「主の道を真っ直ぐにせよ」と叫ぶ声だと応える。

すると人々は「では、なぜあなたは権威ある存在ではないのにバプテスマを授けているのか」と問いかける。

～語注～

* 「メシア」
	+ 「油（香油）を注がれた者」という意味。古代イスラエルでは王が就任式の際に油を注がれた。後に「油を注がれた者」は正しい治世をもって国を治める理想的な王を指すようになり、続いて神の決定的な救いをもたらす「救い主」を指すようになった。新約聖書では「救い主」の意でしばしば用いられる。
* 「エリヤ」
	+ 旧約聖書を代表するユダヤ人の預言者。旧約聖書を教典とするユダヤ教では最大の預言者とみなされ、旧約聖書には彼の死が記されていないため、1世紀のこの時代には素晴らしい預言者が出た時、「エリヤの再来ではないか！？」と民衆の間で噂になることが多かった。
* 「預」言者
	+ ノストラダムスのような「予」言者ではない。神からの「言」葉を「預」けられた「者」という意味。
* 「主」
	+ 神のこと。三位一体説では「神＝イエス＝聖霊」なので、しばしばイエスを差す言葉としても使われる。
* 「ファリサイ派」＝「パリサイ人」
	+ ユダヤ教の一派。民衆に大きな影響力を持っていた。律法を守ることなどの宗教的な清めを強調した。イエスにしばしば突っかかる。
* 「洗礼（バプテスマ）」
	+ 罪を清め、信仰生活に入る儀式。
* 「主の道をまっすぐにせよ」（旧・イザヤ書40：3）とは、ここではどういうことを言いたいのか？
	+ もうすぐメシアである主イエスが来る。しかし、主が来たとしても人々の心に迎え入れる準備ができていなければ、イエスの言葉を受け入れることができない。そこで、洗礼者ヨハネはイエスが来る前に人々の心に信仰の下準備をしようとした。

・【鳩のような聖霊】29-34

ヨハネはイエスがやってくるのを見て、「彼こそが私のあとにくるものだ」と言う。

「御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまるのを私は見ました。」

**Ｑ1.「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」とイエスを見たヨハネは言っています。**

**なぜ彼はイエスを「子羊」に例えたのでしょうか。**

水口先生：①贖罪

　　　　　②cf黙示録７章１０節

　　　　　　子羊＝王の王の存在。ヨハネは直感的にイエスが贖い主であり、かつ王の王であることに気づいた。

**Ｑ2.この時代のイスラエルってどんなところ？**

**ユダヤ人とどう関係がある？**

**Q3.聖霊とは何もの？**

宮：メッセンジャーともイメージできるが、正確には三位一体にして神・イエスと同一のもの。人に入り込んで考えやその人自身に影響力を持つ。

# 【イエスのさそい】35-51

ヨハネの弟子ふたりはイエスについていく。

その後もイエスの弟子は次々に増えていくことになる。

**Ｑ4.　50節、51節でイエスが言っていることの意味が分かりますか？**

**Ｑ5アンデレやピリポは、自分の身近な人たちにイエスを伝えました。**

**あなたは自分が「素晴らしい」と思ったものを人に伝えたことがありますか。**

**それは受け入れてもらえましたか？**

**ラビ**…ユダヤ教に於いて宗教的指導者であり学者でもあるような存在。訳せば「わが師」「先生」。(ﾟ∀ﾟ)ﾗｳﾞｨ!!